

平成 4 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

即清寺の新四国八十八ヶ所霊場の碑について

柚木町一丁目にある即清寺から裏山の吉野園地を通過して愛宕神社億の院への道筋に、慶応年間（1865～7）に建立された新四国八十八ヶ所霊場の碑があります。

この碑の建立の由来は、安政年間（1854～60）、即清寺の僧融恵が四国霊場が関東から遠く離れ遍路したくてもできない者が多くいることから志願し、その遍路の折り各霊場の浄土を持ち帰り、即清寺の守護社である愛宕神社の霊地に四国霊場になぞらえて石碑の建立を企画されました。しかしその志半ばの文久 2 年（1862）病床につき目的達成されることなく世を去りました。その後、慶応元年になって先師の意思を継いだ同寺第 34 世融雅と地元の岩田・野村両氏が世話人になり、3 年の歳月をかけようやく建立されたものです。

この石碑の建立に賛同し奇進した人たちは、30 カ村余りの村々から名前が碑などから分かるだけでも約 200 人、「村中」の名で共同奇進した人たちを含めると恐らく 300 人近くになると思われまます。それをもう少し詳しくみてみますと、青梅市域の村では地元の柚木村の約 110 人をはじめとして、下村（現梅郷）の 25 人、御岳村の 11 人、二又尾村と沢井村の各 7 人、日向和田村の 6 人、日陰和田村と青梅村の各 4 人、木下村の 2 人、他に黒沢村、西分村及び千カ瀬村で各 1 人と 1 2 カ村から、そして近郷の村などに広げてみると、八王子宿、下恩方村、五日市村、小和田村、留原村、戸倉村、高尾村、深沢村、横沢村、大久野村、平井村、福生村、宮沢村、中藤村、所沢村など 17 カ村から、さらに遠方の野州・結城（現茨城県結城市）や江戸の深川木場・神田明神前・麴町・牛込・南八丁掘といったところの商人からの奇進も見えます。奇進の目的地はもちろん信仰心からでしょうが、それと子や親などの供養を兼ねたと思われるものも数基見受けられます。奇進された金額は当時のお金で 1004 両余といえますから、現在の貨幣価値に換算し約 1 億円余という金額になります。石碑の原材は遠く伊豆の小松石や根府川石が半々ぐらいつつ使われています。この石碑は原材を地元を持ち込み加工したものでなく、四谷（江戸）や柳沢（現保谷市内）などで仕立てられ、この地に運んで建立したことが窺いしれ、そのうち 6 基に江戸神田・与四郎、また 2 基に田無・谷合五雪といった石工の名が刻まれているのを確認できます。各霊場になぞらえた碑の形式のほとんどは、頂部に各霊場の本尊（釈迦如来、薬師如来等）の種子（梵字）、そしてその下部に本尊、ご詠歌、弘法大師像さらに奇進者の名前や建立年号が刻まれているものです。碑面の文字や弘法大師像を描いた人物については残念ながら不明ですが、数基の碑に「夢香賀斎」と刻まれています。しかしその人物については残念ながら不明です。この石碑に関わった先人の信仰心とその遺業を是非一度巡ってみるのをおすすめします。

(文責 大澤清吾)